

ニナル故ダイダイト名クト云、因テ漢名回青橙ト云、八閩通志ニ出ヅ、九州ニテハ春ニ至リテ穰
ヲ搾リテ酢ノ代トス、又一種カブスト云アリ、今ダイダイト呼ブ者、多ハコノカブスナリ、形状ハ
ダイダイニ異ナラズ、只帶一種ニシテ重ナラズ、コレ秘傳花鏡ニ謂ユル臭橙ニシテ、時珍ノ説ニ
一種臭氣ト云者ナリ、此モ皮苦ク食用ニ堪ヘズ、蚊ヲ熏ルニ用ユ、故ニカブスト呼ブ、今ハコノ未
熟、小ナル者ヲ乾シテ枳殼トナシ賣ル、

〔傍廂 前篇〕九年母

神代より日向の小門の橘今もありて、いと大きくして、味の美なる事、橘柑中の最第一なり、後世
にいたりて、密柑、柑子、金柑、柚、橙、枳殼などつぎにわたり來ぬれど、上古の橘の片はしにも及
ばず、そが中に九年母といへるは、垂仁天皇の御代に、田道間守といふ人を、常世の國につかはさ
れて、時じくのかぐのこのみをととりよせ給ひしを、後世九年母といへる故は、御記の九十年春二
月庚子朔、天皇命、田道間守、遣常世國、令求非時香菓、今いふ橘これなりとありて、九十九年云々、明
年春三月辛未朔壬午、田道間守至、自常世國、則賫物也、非時香菓云々とある、九十年より九十九年
の明年まで、十一年なるをつかはされし年と、かへりし年とを略きて、中九年なれば、九年母とい
ふなるべし、母とはこの菓を乳柑といへれば、母と號けしならん、又九年を久年ともかけるは、橙
をば代々といへるに同じ祝言なるべし、

朱欒

〔大和本草 果木〕朱欒ラシ 本草ニ朱欒ハ柚ノ釋名ニ載テ別ニ條ヲ不立、橘譜曰、朱欒類圓實、皮麤瓣堅、味
酸惡不可食、其大有至尺三四寸圍者、摘之置几案間、久則其臭如蘭、今按是ザンボナリ、本草時珍云、
柚大者謂之朱欒、最大者謂之香欒、朱欒類近年本邦ニモ多シ、柑橙屬ナリ、大ナルヲザンボト云、葉
ハ柑ニ似タリ、實ハ橙ニ似テ、其大サハ圍一尺五寸ニイタル、皮黃ニ肉厚シテ香シ、色黃白ナリ、鹽
豉ニ藏ムベシ、ナカコハ酸クシテ不可食、是本邦ニ所在ノ諸果ノ内最大ナル者ナリ、長崎ニ多シ、